

筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群 (ME/CFS) の調査票

回答は可能な範囲で結構です。複数の患者を診察した際には、本調査票をコピーしてお使いください。

なお、本調査票には患者が特定できる情報（貴院 ID や氏名等）を記載しないでください（対応表などで患者情報の把握をお願い致します）。

症例番号（貴院 ID 以外の任意の番号）:

年齢： 歳（調査票記載時点）

性別： ☐男 ☐女

発症時期：(西暦) 年 月 日 (発症年齢： 歳)

発症の契機：感染症（伝染性単核球症・COVID-19 など）、メンタルストレスなど

家族内発症：☐なし ☒あり → 具体的な発症者（ ）

既往歴：アレルギー、起立性調節障害など具体的にご記入ください

小児期

成人（18 歲）以降

記載年月日： 2023 年 月 日

貴院施設名：

記載者氏名・診療科：

電話番号：

ME/CFS のカナダ基準 (2003 Canadian Consensus Criteria)

症状	症状の説明
病的疲労 ☐ あり ☐ なし	活動レベルを大幅に低下させる、新規の、説明のつかない、持続性または再発性の、かなりの程度の身体的および/または精神的疲労であり、労作の結果ではなく、安静によって軽減しないもの
労作後の消耗（症状悪化） ☐ あり ☐ なし	軽度の労作や通常の活動の後に、消耗が生じる。消耗とは、身体的精神的なスタミナの喪失および/または他の症状の悪化。回復しにくく、回復までに24時間以上かかる。
睡眠に関する問題 ☐ あり ☐ なし	睡眠によって、疲れが取れるということがない。 睡眠時間の減少 - 日中の過眠あるいは夜間の不眠症 及び/又は概日リズム障害 - 昼夜反転 まれには、睡眠障害がない例がある
痛み ☐ あり ☐ なし	痛みは広範囲にわたる場合、遊走性、限局性の場合がある： 筋肉痛、関節痛（炎症の徴候のない）、及び/又は新たな型、パターン、重症度の頭痛。まれには、痛みがない例もある
神経・認知に関する症状 2 つ ☐ あり ☐ なし	集中力低下、短期記憶障害、または語想起の障害、光・音過敏や感情の大きな負荷、混乱しやすい、見当識障害、思考緩慢、筋力低下、運動失調
(a) 自律神経の症状 ☐ あり ☐ なし	起立不耐性、神経介在性低血圧（NMH）、体位性起立性頻拍症候群（POTS）、めまい感、極度の蒼白、動悸、労作性呼吸困難、頻尿、過敏性腸症候群（IBS）、嘔気
(b) 神経内分泌の症状 ☐ あり ☐ なし	低体温、手足の冷え、発汗過多、暑さや寒気への不耐、ストレス耐性の低下、ストレスによる症状悪化、体重変化、食欲亢進
(c) 免疫系の症状 ☐ あり ☐ なし	インフルエンザ様症状が頻発する、喉の痛み、リンパ節痛、発熱、食品や薬品・匂い・化学物質に対する以前はなかった過敏症

※ 右欄の「症状の説明」のなかで、該当する症状があれば、○で囲んでください。

※ 分類の仕方について、不自然なところがありますが、カナダ基準の原文の分類となりますので、どうぞご理解ください。

- 病的な疲労、労作後の消耗、睡眠障害、痛み、2 つ以上の認知に関する症状のすべてがある
☐該当する ☐しない
- (a)自律神経系の症状、(b)神経内分泌系の症状、(c)免疫系の症状のうち、いずれか 2 つにおいて、1 つ以上の症状がある：
☐該当する ☐しない
- 疲労や他の症状が次の期間、持続ないし再発している（成人で 6 ヶ月以上、小児および青年で 3 ヶ月以上）ただし早期に暫定診断が可能な場合もある
☐該当する ☐しない
- 症状が他の疾患では説明できないこと
☐該当する ☐しない

症状の特徴：

- 突然の発症が最も多いが、発症が緩徐な場合もある
- 症状は、日々変化または日内変動する可能性がある
- 再発と寛解はよくみられる
- 労作後の症状再燃は労作直後に生じる場合や、24 時間以上遅れて生じる場合がある
- 痛みおよび/または睡眠障害がなくても、突然発症の場合は ME/CFS の診断は可能である

除外診断

ME/CFS の症状によく似た症状をもつ他の疾患が多数ある。主要な症状である疲労や睡眠障害、痛み、認知機能障害を説明しうるアクティブな疾患については、病歴や身体所見、臨床検査により除外する必要がある。以下に、比較的多くみられる除外診断を挙げる。

除外できる：☒

なし☐貧血

なし☐自己免疫疾患（関節リウマチ、SLE など）

なし☐心疾患

なし☐内分泌疾患（糖尿病、アジソン病、甲状腺疾患、閉経など）

なし☐感染症（結核、HIV/エイズ、慢性肝炎、ライム病など）

なし☐腸疾患（セリアック病、クローン病など）

なし☐悪性腫瘍

なし☐神経系疾患（多発性硬化症、パーキンソン病、重症筋無力症など）

なし☐一次性的な精神障害や薬物乱用（臨床的うつ病は除く）

なし☐重度の肺疾患

なし☐原発性睡眠障害（睡眠時無呼吸症候群など）

除外しないもの：（ある場合に☒)

- ME/CFS の病態に伴うもので、合併しやすいもの。
あり☐アレルギー、
あり☐線維筋痛症（fibromyalgia：FM）、
あり☐過敏性腸症候群（irritable bowel syndrome：IBS）、
あり☐化学物質過敏症（multiple chemical sensitivities：MCS）などを含む
あり☐その他の合併疾患（具体的に：_____）
- 十分適切に治療されコントロールされているあらゆる疾患
あり☐（具体的に：_____）
- 除外診断するには不十分な、何らかの単発の身体所見や臨床検査値の異常
あり☐（具体的に：_____）

☐はい：患者はME/CFSの基準を満たしている

☐はい：基準を完全には満たしてはいないが、患者の経過観察が必要である

厚生労働省研究班による臨床診断基準

筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群（ME/CFS）臨床診断基準（案）（2016年3月改訂）

1. 強い倦怠感を伴う日常活動能力の低下*	☐ あり ☐ なし
2. 活動後の強い疲労・倦怠感**	☐ あり ☐ なし
3. 睡眠障害、熟睡感のない睡眠	☐ あり ☐ なし
4. 下記の（ア）または（イ） （ア）認知機能の障害 （イ）起立性調節障害	☐ あり ☐ なし ☐ あり ☐ なし 具体的に： ☐ 体位性起立頻脈症候群（POTS） ☐ 起立直後性低血圧 ☐ 遅延性起立性低血圧 ☐ 血管迷走神経性失神 ☐ その他（ ）
別表 1-1 に記載されている最低限の検査を実施し、別表 1-2 に記載された疾病を鑑別できる	☐ できる ☐ できない
上の回答で「除外困難」と回答した理由を右欄にお書きください。	

*病前の職業、学業、社会生活、個人的活動と比較して判断する。体質的（例：小さいころから虚弱であった）というものではなく、明らかに新たに発生した状態である。過労によるものではなく、休息によっても改善しない、別表 2 に記載された「PS (performance status) による疲労・倦怠の程度」を医師が判断し、PS3 以上の状態であること。

**活動とは、身体活動のみならず、精神的、知的、体位変換などの様々なストレスを含む。

別表1-1. ME/CFS診断に必要な最低限の臨床検査

- (1) 尿検査（試験紙法）
- (2) 便潜血反応（ヒトヘモグロビン）
- (3) 血液一般検査（WBC, Hb, Ht, RBC, 血小板, 末梢血液像）
- (4) CRP,赤沈
- (5) 血液生化学（TP,蛋白分画, TC, TG, AST, ALT, LD, γ -GT, BUN, Cr, 尿酸, 血清電解質, 血糖）
- (6) 甲状腺検査（TSH）、リウマトイド因子、抗核抗体
- (7) 心電図
- (8) 胸部単純X線撮影

別表1-2. 鑑別すべき主な疾患・病態

- (1) 臓器不全：（例；肺気腫、肝硬変、心不全、慢性腎不全など）
- (2) 慢性感染症：（例；AIDS, B型肝炎、C型肝炎など）
- (3) 膠原病・リウマチ性、および慢性炎症性疾患：
（例；SLE, RA, Sjogren症候群, 炎症性腸疾患, 慢性膵炎など）
- (4) 神経系疾患：（例；多発性硬化症、神経筋疾患、てんかん、あるいは
疲労感を惹き起こすような薬剤を持続的に使用する疾患、後遺症をもつ頭部外傷など）
- (5) 系統的治療を必要とする疾患：（例；臓器・骨髄移植、
がん化学療法、脳・胸部・腹部・骨盤への放射線治療など）
- (6) 内分泌・代謝疾患：（例；糖尿病、甲状腺疾患、下垂体機能不全、副腎不全など）
- (7) 原発性睡眠障害：（例；睡眠時無呼吸症候群、ナルコレプシーなど）
- (8) 精神疾患：（例；双極性障害、統合失調症、精神病的うつ病、薬物乱用・依存症など）

厚生労働省研究班による PS スコアに基づく ME/CFS の重症度分類

・現在、最も近いPSを下表より選択しご回答ください。 _____

・経過の中で最も重症時のPSを選択しご回答ください。 _____

◆PS（performance status）による疲労・倦怠の程度（PSは医師が判断する）

0：	倦怠感がなく平常の社会生活ができ、制限を受けることなく行動できる
1：	通常 of 社会生活ができ、労働も可能であるが、疲労を感じるときがしばしばある
2：	通常 of 社会生活ができ、労働も可能であるが、全身倦怠感のため、しばしば休息が必要である
3：	全身倦怠感のため、月に数日は社会生活や労働ができず、自宅にて休息が必要である★1
4：	全身倦怠感のため、週に数日は社会生活や労働ができず、自宅にて休息が必要である★2
5：	通常 of 社会生活や労働は困難である。軽労働は可能であるが、週のうち数日は自宅にて休息が必要である★3
6：	調子の良い日には軽労働は可能であるが、週のうち50%以上は自宅にて休息している
7：	身の回りのことはでき、介助も不要であるが、通常 of 社会生活や軽労働は不可能である★4
8：	身の回りのある程度 of ことはできるが、しばしば介助がいり、日中の50%以上は就床している★5
9：	身の回りのこともできず、常に介助がいり、終日就床を必要としている

疲労・倦怠感の具体例（PSの説明）

- ★1 社会生活や労働ができない「月に数日」には、土日や祭日などの休日は含まない。また、労働時間の短縮など明らかな勤務制限が必要な状態を含む。
- ★2 健康であれば週5日の勤務を希望しているのに対して、週に数日しかフルタイムの勤務ができない状態。半日勤務などの場合は、週5日の勤務でも該当する。
- ★3 フルタイムの勤務は全くできない状態。ここに書かれている「軽労働」とは、数時間程度の事務作業などの身体的負担の軽い労働を意味しており、身の回りの作業ではない。
- ★4 1日中、ほとんど自宅にて生活をしている状態。収益につながるような短時間のアルバイトなどは全くできない。ここでの介助とは、入浴、食事摂取、調理、排泄、移動、衣服の着脱などの基本的な生活に対するものをいう。
- ★5 外出は困難で、自宅にて生活をしている状態。日中の 50%以上は就床していることが重要。

AMED「慢性疲労症候群に対する治療法の開発と治療ガイドラインの作成」研究班 平成 27 年度研究成果報告書（総括報告）別表 2 より

<https://www.fuksi-kagk-u.ac.jp/guide/efforts/research/kuratsune/index.html>

合併/併存している疾患について

様々な合併疾患について、ご記載ください。除外診断が困難である、症状に対する合併疾患の影響が考えられるなど判断が難しい場合もありますが、そのままお書きください。

- ・患者が有している疾患に☒

☐線維筋痛症 ☐過敏性腸症候群 ☐化学物質過敏症

- ・上記以外に下記に該当する疾患があれば、具体的な病名をご記入ください。

アレルギー疾患	
精神疾患	
神経疾患	
膠原病	
血液疾患	
内分泌代謝疾患	
循環器疾患	
その他疾患	

参考：主な鑑別疾患（米国 ME/CFS 臨床医連合作成「診断と治療」<https://mecfsccliniciancoalition.org/wp-content/uploads/2021/06/MECFS-Clinician-Coalition-Diagnosis-and-Treatment-Handout-V2.pdf> より翻訳し引用改変）

内分泌/代謝異常 原発性副腎不全、副腎皮質ホルモン過剰症、甲状腺機能過剰/低下、糖尿病、高Ca血症	リウマチ性疾患 全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、多発性筋炎、リウマチ性多発筋痛症	神経疾患 多発性硬化症、パーキンソン病、重症筋無力症、ビタミンB12欠損症、脳脊髄液漏出症、Chiari奇形、脳外傷、脊髄管狭窄、てんかん
感染症 HIV、マダニ媒介疾患、B/C型肝炎、結核、ジアルジア感染、West Nileウイルス、Q熱、バレー熱、梅毒、EBウイルス、パルボウイルス	睡眠障害 睡眠時無呼吸、ナルコレプシー、周期性四肢運動障害	一次性精神疾患 不安障害、鬱病、双極性障害
胃腸疾患 セリアック病、食物アレルギー又は食物不耐症、炎症性腸疾患、腸内細菌異常増殖	心血管疾患 心筋症、冠動脈疾患、肺高血圧症、心臓弁膜症、不整脈	血液疾患 貧血（鉄欠乏など治療可能なもの）、鉄過剰
毒性物質 薬物乱用、環境因子への暴露(例. 鉛、水銀)、カビ/カビ毒、薬物副作用、湾岸戦争症候群	悪性腫瘍 原発癌、続発性癌	その他 重度肥満(BMI>40)、過労、運動選手のオーバートレーニング症候群、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患

下線は、ME/CFSの併存症としてもよく見られるもの

診察所見・検査結果・治療内容

診察所見 (該当するものに☑し、具体的な内容をご記入ください)

・一般内科学的所見 (例：微熱・発熱・リンパ節腫脹・肥満など)

☐特記なし ☐異常あり (具体的な所見：_____

・神経学的所見 ☐特記なし ☐異常あり (具体的に：_____

検査結果 (該当するものに☑し、具体的な内容をご記入ください)

・血液検査 ☐異常なし ☐異常あり (結果：_____

・髄液検査 ☐実施なし ☐実施あり (結果：_____

・内科画像検査 ☐異常あり (結果：_____

・頭部 MRI ☐実施なし ☐実施あり (結果：_____

・脳血流 SPECT ☐実施なし ☐実施あり (結果：_____

・その他の検査 (例：脳波、神経伝導検査) ☐あり (内容：_____

治療内容 (現在の治療について、該当する治療があれば☑をつけ、内容を記載してください)

薬物療法

☐疲労に対する治療薬 (薬剤名_____

☐睡眠薬 (薬剤名_____

☐鎮痛薬 (薬剤名_____

☐精神科治療薬 (抗うつ薬など) (薬剤名_____

☐循環器系治療薬 (薬剤名_____

☐消化器系治療薬 (薬剤名_____

☐呼吸器系治療薬 (薬剤名_____

☐その他 (免疫抑制剤、抗ウイルス薬など) _____

サプリメント類 (ビタミン・コエンザイム Q10 など)

☐ (自由記載) _____

非薬物療法／生活指導

☐活動量の調整(ペーシング) ☐食事療法 (内容：_____

☐理学療法 ☐上咽頭擦過療法 (B スポット療法)

☐代替医療 (鍼灸、マッサージ等) (内容：_____

☐その他 (自由記載) _____

併診している専門科

☐精神科 ☐心療内科 ☐漢方専門医

☐その他 (自由記載) _____

以上となります。 ご協力いただき、まことにありがとうございました。